

第4回柏崎市総合計画審議会・柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会概要

1 日 時 平成27年10月2日（金） 午後3時から午後4時50分まで

2 場 所 柏崎市役所第二分館302会議室

3 出席者

(1) 委 員 14名（欠席：6名）

(2) 庁 内 市長、副市長、教育長、総合企画部長、財務部長、危機管理監、市民生活部長、福祉保健部長、産業振興部長、都市整備部長、会計管理者、ガス水道局長、消防長、教育部長、議会事務局長

(3) 事務局（企画政策課） 課長、主幹、企画係長、政策係長、企画係員2名、政策係員1名、受託事業者

4 概 要

会長からの開会のあいさつの後、事務局から次の事項について資料に基づき説明を行い、その後、委員による質疑・意見が行われた。

(1) 総合戦略の素案について

発言者

発 言 概 要

<全体総括>

会 長： ・ K P I の考え方は再考できないか。例えば、もう少し項目を増やしたり、K P I を達成するための取組方法や、達成することによる効果を整理するなど。

・ 主要施策における主な事業の説明（具体的な取組内容）が欲しい。

・ 地域が抱えている危機感が伝わるような内容をできるだけ本文に盛り込んだ方が良い。

・ 若者が柏崎の魅力を感じ、住み続けることを促す書き方、伝え方の工夫ができると良い。

・ 若者の流出抑制と流入促進の考え方を分けるなど、ターゲットを明確にした整理ができると良い。

・ 柏崎の魅力として、観光分野の資源も記載した方が良く、特に海を取り上げるべきではないか。

・ 産業の振興は、柏崎における重要な活力のひとつである農業についても記述があったほうが良い。

<計画の概要（P5）>

委 員： 若者の流入促進にターゲットを当てることは重要であるが、高齢者に対する視点も盛り込む必要があると感じている。

副会長： 高齢者以外にも障害のある方を支える体制や人材育成できる環境を整える方法を色々な人がシェアすることで可能性が広がると考えられ、計画でもそのポイントが書かれていると良いと思う。

<将来の人口展望（P17）>

委 員： 若い世代の人口流出の抑制を前面に出すと、若者に柏崎に暮らし続けることを強いる印象がある。若者の希望を叶えることができる地域社会や環境づくりが重要であり、Uターンでも良いので若者が主体的に柏崎を選び、住み続けることを促す方向性が重要である。

副会長： 働く場だけではなく魅力づくりも必要である。

委員： 島根県では、子供のころから地域で働く人を知る機会を設けている。柏崎でも、子ども自身が自ら気づく機会を教育の中で設けられないか。

会長： 若者にはエネルギーで向上心が非常に高く、大都市に出て世界的に羽ばたく生き方もあるが、柏崎はゆったり暮らす価値観を持つ若者に住み良いとアピールできる。

「柏崎に住み、働き、生活を送る若い世代」の文章において、「住み、働き」の間に「学び」を追加してほしい。

＜総合戦略の目標（P22）＞

委員： 目標に「愛着を持って暮らす」という表現があるが、戦略の一つ一つが愛着につながるものが伝わりづらい印象がある。愛着を創出するためにも、全ての市民が力を合わせて創っていくこと総合戦略の全体に散りばめられていると良いのではないか。

委員： 目標は、「・・・暮らす」等という動詞表現ではなく、体言止めにしてはどうか。

委員： 新潟県でも動詞表現を用いており、違和感はないと思われる。

＜目標別の総合戦略（P24～31）＞

委員： 現在の有効求人倍率は1.00を超えており、それを評価指標にするよりも雇用のミスマッチの改善が重要ではないか。

法人数が減少し、働く場がなくなる、あるいは働く場はあるが福祉や高齢者サービスが対応できず、雇用が進まないなど状況が想定できる。働く人の労働環境の改善や各種サービスの充実を進めないと、労働力の流出が続くのではないかと危惧している。

現在の市内の求人は、性別・年齢を問わず、アルバイトも含めると一定量存在している。一方で、看護・福祉サービスに関わる人材が慢性的に不足しており、雇用や産業振興においてミスマッチを解決していかなければ、看護・福祉のサービスの低下を招く恐れがある。

委員： アルバイトの募集は市内の至るところで見られるが、働き手が定着しない状況にあるという話を聞くので、ミスマッチを改善することが重要であると感じている。

委員： 若い女性のUターン促進には、ミスマッチを改善することが重要になると考えられる。特に事務系の仕事があると女性も社会進出しやすいと考えられる。

会長： 「男性の職業」、「女性の職業」と性別で分け隔てをすることも良くない。近年では、いわゆる男性の職業の場で女性が活躍する場面も見られるので、女性が活躍でき、楽しんで仕事をしたり、生活できたりする環境を整えることが重要である。

委員： 都市では大手企業が60%ほどを占めるが、新潟県内は15%程度でしかない。大手企業のグローバルな流れも踏まえる必要があるが、柏崎では十分に対応できていない。今後、相当のパワーを雇用促進に向け、取り組むことが求められる。

副会長： 若者の出会いの場をつくる評価指標として、25歳から34歳の未婚の割合を挙げているが、もう少し上の年代に幅を広げて良いのではないか。出会い創出事業の具体的な内容として、サポートセンターの設立等を挙げても良いのではないか。

委員： Iターンで柏崎に住むこととなったが、子育て環境に恵まれていると感じている。子育て世代が地域に定着していくためには、地域や市民が受け入れてくれることが重要である。

- 委員： 若者リーダーの育成は大事だが、将来を考えている高校生が少ない印象があることから、子供の頃からの教育で柏崎に暮らし続けることの大切さを伝えることも重要である。また、子どもたちから見て、「この仕事がしたい」と思うものが市内になければならない。
- 委員： 主な事業の空き家対策は目的に合っているが、若者の定住を促進する上では空き家対策としてではなく、取組内容が同じでも事業名を置き換えることが望ましい。
- 海や観光という観点も謳っていく必要があると感じている。例えば、サーフィンをすることを契機に柏崎に転入した若者もいるので、このような魅力発信や事業展開も進めてほしい。
- 会長： 観光のポイントをある程度絞った上で、長岡等の周辺自治体に勝るものを挙げて、施策を展開させることが望ましい。
- 委員： 市内にある２つの大学をもっと活用すべきではないか。
- 会長： 大学には暫定的なＩターン者である新生が毎年２～３百人程度二つの大学に入ってくる。これらの学生を恒久的なＩターンに変えることが重要であり、その取組も戦略に盛り込めないか。
- 若者リーダー育成プロジェクトに、大学との連携の記述を追加してほしい。大学は次世代を担う人材を育成しており、連携の強化により学生を定着させられる可能性がある。
- 委員： 実現は困難かもしれないが、新潟産業大学に看護学部創設を提案してはどうか。看護師は介護分野等でも活躍でき、医療・福祉サービス水準の維持向上につながると考えられる。
- 会長： ＵターンとＩターンは性質が異なるため、施策の考え方や取組を分けて検討したい。
- 委員： 現在、市内で暮らしている人と市外の人への取組も分けて検討する必要がある。特に市内の人に対しては、留まってもらう施策が重要である。
- 委員： 基本的方向、主要施策、主な事業を簡潔に記述することは良いと思うが、主な事業の内容の具体的な説明があると伝わりやすい。
- 副会長： 例えば、新エネルギーの構築は良い取組であると思うが、浄化センターで既にバイオマスが活用されていたり、今後木質バイオマスの活用が想定されたりするので、そのような具体的な内容を追記した方が良いのではないか。
- 委員： 主な事業の具体的な内容をわかるようにするとともに、５か年の中で「いつ」「だれが」「何を取り組むのか」を示す方が良いと感じる。
- 委員： ＫＰＩの項目は多いと良いというものではないが、他都市の総合戦略と比較すると、項目が少ない印象がある。
- 委員： ＫＰＩは取組内容や進捗状況が伝わりやすいキャッチーな指標を用いる工夫はできないか。また、難しいかもしれないが、切迫感を伝えたり、柏崎に期待や魅力を感じられて人が呼び込めたりするようなものを指標として用いることはできないか。
- 委員： 群馬県では、金融機関（信用金庫）や行政、産業等がタッグを組んで、ターゲットを絞りセールスを仕掛けている。柏崎でも同様に取り組まないと大きな成果は期待できない。例えば、旅館業団体は自らが客を呼び込むパワーがないので、組織を横断して取り組むことが重要である。
- 市長： シティセールスに関しては、地元の信用金庫から様々な提案があるため、複数の分野で連

携していきたい。

委員： 駅前で親子が遊んでいる場面を目にすることがある。いい遊び場・魅力ある公園があると子供は出てくるので、ハードでも対応できることがあると思われる。

委員： 特定の世代・性別にターゲットを当てただけでは魅力は生まれない。多世代が支えあうことで地域の魅力が生まれてくるので、総合計画ではこの視点を大切にして検討を続けてほしい。

委員： 高柳町地域で自然を活用した学習、体験活動を行っている方々がいるように、地域単位で具体的な取組をしていることもあり、地域性に着目した施策があるとよいのではないかな。

委員： 施策の対象が市街地に特化している印象がある。総合計画では西山地域や高柳地域をはじめとした周辺部なども対象に、地域性を活かしたものとして欲しい。

委員： 重点プロジェクトにも具体的な取組が記述されるとよい。

委員： 若者の雇用促進を重要施策に挙げているが、喫緊の課題として、女性の進出の場がなく、その対策が重要である。女性をもっと強調する必要があるのではないかな。女性が高学歴化しており、働き甲斐のある職場環境や女性の活躍の場という視点が重要である。既存産業も従来の見方を変えて、女性の起用を進めていただきたい。

委員： 看護・福祉分野では夜勤があるため、これらに勤務する女性をサポートするためには、例えば24時間保育等の体制づくりも必要となる。

5 その他

(1) 次回の開催日

10月20日（火）午後3時30分から